

小岱委員提出資料

熊本県地域子育て支援センター事業連絡協議会（熊本子育てネット）の小岱紫明です。この度の子ども大綱は子育てについてのわが国初のナショナルカリキュラムで、今までにない画期的なものかと思えます。

かつてOECDが、スターティングストロング、人生の始まりこそ力強く、と提唱しましたが、我が国においても今回は具体化した内容になっています。

子育て支援に従事する者にとって、キーワードは『初めの100ヶ月の育ちビジョン』です。産前から小学校への移行期までの時期に、一人ひとりが健やかに育つことができるよう具体策をまとめてあります。

『切れ目ない支援』というのも大事なキーワードです。出産してから、いきなり普通の生活に戻れる人もおられますが、まわりにサポートする人がいない人は大変なようです。保育園でも生後8週から預かれるようになっていますが、現状は保育士不足など課題も多いようです。疲れた時など、母子ともに気軽に休める施設が、各地にもっと普及すればいいと思います。産後うつを防ぐ意味でも大きな効果があります。子どもの虐待死の約半数は0歳児であるとの報告があります。その多くは産後うつの方が多いとも言われています。産前から乳児期までは、特に重要な時期です。フィンランドにはネウボラという気軽に利用できる施設があります。日本で出産するよりフィンランドのほうが子育てしやすいという方もおられます。

この会議には都市計画などの関係者は入っておられませんが、若い人が住みたくなる街、子育てしやすい街作りなど、都市計画作りのハード面も大事ではないかと思えます。バギーを押して安心して散歩できる歩道がある街です。アメリカで最も人気のある街が、ポートランドといわれています。生活に必要なものが歩いて15分くらいで手に入る。ベストウォーキングシティといわれています。

それと、男性の意識改革ではなかろうかと思えます。最近の若いお父さんたちは昔に比べると育児をよく手伝っておられますが、年配の方はまだまだ強いようです。

最後に、乳幼児期の保育に関わる人は、子どもの代弁者であるべきです。いわゆるアドボケートです。乳幼児は自分のことを言葉で十分に表現できません。子どもに代わって子どもの気持ち、子どもの生活状況など代弁し、行政、社会に訴えていく必要があります。保育士にとっての大事な資質の一つは、子どもの心を受け止めることができることかと思えます。

